

令和 3 年度 【 学園研究費助成金 < A > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ イツカ エリト
氏名 飯塚 恵理人

研究期間 令和 3 年度

研究課題名 椋山女学園大学所蔵和書の解題目録作成とリポジトリによる善本の公開

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	飯塚恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者	伊藤信博	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者	富田和子	生活科学部	助教

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本学図書館の和書は、文学部国文学科(現：国際コミュニケーション学部表現文化学科)と短期大学部国文学科(現：文化情報学部文化情報学科)の基礎段階の古文書演習の教材として購入したもので、御家流書体の版本が大半である。これらは比較的読みやすく大学の演習に良い教材であるが、短大・学部改組により現在は未整理のままに死蔵されている。本研究ではこれら和本の目録と解題を作成し、そのうち善本については撮影画像を椋山女学園大学リポジトリから一般公開することを目的とする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- ① 和書における題名、奥付、法量、各ページの画像等のうち、どのデータを収集するかを決定する。得られるデータの入力・校正方法、画像撮影の方法、またそれらを外部へ委託する際の内容についても検討する。(伊藤・富田・飯塚担当)
- ② 以上を決定した上で、個々の和書のデータ収集(画像撮影は委託)を開始、得られたデータの入力を委託する。(伊藤担当)
- ③ 令和 3 年 9 月末を目途に、それまでに撮影した画像からリポジトリにアップする善本を伊藤が選定する。撮影した画像は校正後にリポジトリにアップして一般公開する。並行して個々の和書の解題を作成する。(伊藤・富田・飯塚担当)
- ④ それまでの過程をまとめ、学部紀要などに論文の形で発表することを検討する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

今年度は絵入など古文書初学者向けの和本を100冊選び、伊藤が撮影業者を選定して10月に本を撮影した。その画像データから伊藤を選定したものをリポジトリに加え、公開した。

(<https://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/Bungakubu/>)

公開したデータの中で主なものとしては「伊勢物語傍註 安永五(1776)年」「宇治拾遺物語(江戸後期)」「宇治大納言物語 天明六(1786)年」「古今著聞集 元禄三(1690)年」「沙石集 元禄三(1690)年」などが挙げられる。本学文学部旧蔵の和書は、学部の二・三年生が初めて古文書を読む演習の教材として購入されたため、御家流で読みやすい「崩し字辞典」の例字形に近い字で表記されている。韓国や中国などの外国で学ぶ大学生や大学院生が日本古典研究の演習課題とするのにもふさわしい本であり、多くの方がダウンロードして利用することで日本文化研究の国際的広がりへもつながる可能性のある資料である。

「古今著聞集」や「宇治大納言物語」など説話関係の本が多いのは、旧文学部で中古文学を担当された武山隆昭先生と中世文学を担当された安田孝子先生が共に説話文学を研究対象の一つにしておられ、質の良い古文書を積極的に購読されていたからと伺っている。説話文学は以前より中学・高校の古典の教科書に多く取り上げられており、卒業生の進路として中高の国語教員養成に力を入れていた旧文学部国文学科の教育内容をも反映していると考えている。

今回は時間的制約から個々の解題を公開するまでには至らなかった。来年度以降の課題としたい。さらに旧短期大学部所蔵で文学部に移管された和書も含めて、まだ多くの初学者の教材にふさわしい和書が残されているので、この活動を継続して大学リポジトリからのデジタル公開を続けたい。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①和本	②デジタル化	③リポジトリ	④説話文学
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

これまでの研究成果は、「3. 研究成果の概要」に記載した通り、リポジトリ「椋山女学園大学デジタルライブラリー」内の「旧文学部国文学研究室所蔵和本」サイトで公開している。サイト上で本学園研究費補助金の助成を受けていることも明記している。

(<https://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/Bungakubu/>)

- ・飯塚恵理人「《弓八幡》の間狂言—八幡神の威徳への収斂—」『文学研究論集』第40号、筑波大学比較・理論文学会、投稿中
- ・伊藤信博『植物・食物の表象文化学』、臨川書店、2022年
- ・富田和子「玉池仙館主人 永坂石埭の狂俳」東海近世文学会12月例会口頭発表(学会ブログ <https://toukaikinsei.blogspot.com/>参照)。本発表は、本学図書館山崎敏夫文庫本の山崎敏夫先生の書き込みに啓発されたもの。